

いた派閥も離れていく。特に、安倍晋三前首相が強い影響力を持つ清和会の動向を警戒しています」（同前）

菅首相は訪米に向けた意見交換で三月二十九日、安倍氏の事務所を訪問。首相秘書官も外した半年ぶりのサシ面会だった。

「安倍氏は首脳会議が延期される前、首相がポトマック川の桜の前に、バイデン氏と並ぶ演出があると聞いて、『わざわざ桜かよ』と言っていた。桜を見る会問題を抱える安倍氏には、皮肉に思えたのでしょう。この日は外交戦略に加えて

『追い込まれ解散は避けるべき』と進言し、首相も殊勝に頷いていたようです」（安倍氏周辺）

その菅首相が起死回生を目論むのは――。「始まれば盛り上がるから」首相は側近らの前でこう口にしてはいる。

「日本人は毎回、五輪が始まれば熱狂する。テレビ局も連日、感動ストーリーを報じます。今回もいざ開幕すれば、メダルラッシュに盛り上がるのを見ています」（前出・首相周辺）その勢いを買って、解散に持ち込めば、負けないと

いう算段なのだ。「その場合、九月九日解散――十月十日投開票などが考えられます。臨時国会を召集しての冒頭解散になりませんが、戦後この例は三回あり、いずれも仏滅で与党が勝っている。九月九日も仏滅です。衆院選で勝利した上で、来る総裁選を無投票再選で乗り切りたい。そうなれば、長期政権の道も開けてきます」（同前）

だが、本当に今夏の東京五輪開催が国民のためになるのか。五輪が首相の私利私欲のためにあってはならない。

「市からは三月中旬にワクチン接種に関する案内が送られてきました。四月二十六日以降、特養（特別養護老人ホーム）、老健（介護老人保健施設）などから接種を開始。次が認知症高齢者グループホーム、有料老人ホームなど。その後施設従事者が接種する。六月末までに、市内全ての高齢者が二回接種できるワクチンを順次供給とありました」

ワクチンはまだか 高齢者施設の悲鳴

高野之夫・東京都豊島区

長が言う。

「単純に、数が足りません。我々の区にも最初は約五百人分のワクチンしか来ない予定。高齢者施設の入

所者と職員だけでも三千人規模になります。とても全体には行き渡らない。しかも区にワクチンが届くのは四月二十六日の週とだけ伝えられており、具体的な日時も

まだ未定なのです」

四月十二日、新型コロナウイルスワクチンの、高齢者への接種が始まった。

だが、開始時点で配布されたワクチンは東京や大阪でも四千回分弱。全国で約三千六百万人いる高齢者の、ごくごく一部に充当される数にすぎない。

数の限られているワクチンで、高齢者の「誰」を優先して接種するのか、各自自治体は頭を悩ませているが、その中で高齢者施設入居者への接種を優先する方針の自治体は多い。

東京・小平市の高齢者施設職員が言う。「市からは三月中旬にワクチン接種に関する案内が送られてきました。四月二十六日以降、特養（特別養護老人ホーム）、老健（介護老人保健施設）などから接種を開始。次が認知症高齢者グループホーム、有料老人ホームなど。その後施設従事者が接種する。六月末までに、市内全ての高齢者が二回接種できるワクチンを順次供給とありました」

だが、これらのスケジュールは画餅で終わる可能性も高いという。高野区長の指摘どおり、現状、供給がまったく足りないからだ。なぜ高齢者施設への接種

が急がれるのか。言うまでもなく高齢者はコロナに感染した際の重症化リスクが高い。加えて、集団生活をすることでクラスター化するリスクもある。二重のリスクを抱えているのだ。



高齢者接種は始まったが……



入所型施設優先の自治体は多い

わせで仕事をしてみました。現場にあるのは「ワクチンはまだなのか」という、悲鳴にも似た切実な声です」この看護師が勤務する施設の入居者は九十代が中心。その多くが認知症を発症しているという。

「認知症の人に手洗いの励行といっても限界があります。持病のある人も多い。もし誰か感染したらすぐにクラスター化するんじゃないかと不安です」(同前)

その不安は職員自身の恐怖でもある。入浴の介助など接触する機会が多い。

「定員四人の休憩所があるのですが、実際に四人入ると肩が触れ合う狭さ。ですからこの一年、毎日お昼ご飯を車の中で食べている職員もいます。

今ほとんたくワクチンを早く入居者に打たせたいし、私たちも打ちたい。職員がクラスターの原因になり、入居者を危険にさらす

ことだけは避けたい。でも、スケジュールについてはまだ何も言われていない。うちの経営母体は病院なので、そこが打ち終わらないとワクチンが回ってこないのでは……と同僚は疑心暗鬼になっています」(同前)

施設のクラスター回避は焦眉の急。施設優先の方針について、高齢者住宅経営者連絡協議会の森川悦明会長が語る。

「クラスター発生のリスクは、個室型より多床室タイプの施設の方が高いと思う

ます。多床室を採用している介護施設では、陽性者が一名確認された場合でも、一時隔離などの感染拡大防止対策を講じづらい。

現状、ワクチンの絶対数が少ないのなら、リスクの高いところから集中的に接種を開始することは合理的だと感じます」

一方で、高齢者施設のマーケティング調査などを行うタムラプランニング&オペレーティングの田村明孝代表は、見逃されている点があると指摘する。

「納得いかない」という医師も

「ほとんどの自治体は入所型の施設を優先してワクチン接種を開始すると思いますが、クラスター発生が最も多いのは、実は通所型のデイサービス。我々の調査では、クラスターの定義を感染者五人以上としていますが、三月十八日時点でデイが百二十一件、次いで特養の八十七件、老健の六十九件でした。日常的に複数のデイを利用していた人が感染したことで、複数のデ

イに感染が拡大した事例もある」

大手デイサービス会社の社員も嘆く。

「ワクチン接種に関して、デイは本当に蚊帳の外に置かれています。従業員も利用者も相変わらずコロナ陽性は出続けているんです。一体いつ打てるのか」

もう一点、大きな問題は、医療従事者のワクチン接種自体も遅れていることだ。都内自治体の保健福祉

部担当者が言う。

「特養など、入所者の多くが重度の認知症発症者の施設の場合、集団接種の会場に来てもらうのは困難。協力医療機関の方に施設に行ってもらうしかありません。ただ、現時点でも『自分が未接種なのに、リスクを取ってワクチンを打ちに行くのは納得がいかない』という医師の声は、我々にも届いています」

愛知県瀬戸市の地域医療支援病院、公立陶生病院の武藤義和・感染症内科主任部長が指摘する。

「医療従事者用と高齢者用のワクチンは、別口」なんです。つまり、医療従事者の前に高齢者用のワクチ

ンが届いたとしても、それを医療従事者に打つことはできない。実際に治療を担当する指定医療機関から優先のため、ワクチン接種を担当する開業医からは、『高齢者に打つのは自分が打つてからだから、まだ協力できない』という声もあります。発熱患者を積極的に診ている開業医の接種が、高齢者より遅くなってしまうという現実もある。

高齢者への接種をスムーズに進めるために、なんとか医療従事者の接種を一刻も早く終えてほしい」

高齢者施設のワクチン接種は、クラスター発生との競争に入っている。負けました、ではすまされない。

灵芝を愛飲の皆様に、おトクなニュースです!

日本をはじめ、アメリカ・中国の州、国立大学でも
研究用に採用された

高品質 飛驒灵芝

よいものだからこそ長く愛飲してほしい、そう考えたから、この価格が実現しました。三十五年以上にわたる科学的な研究、栽培実績の成果を結集したのが「飛驒灵芝」です。その品質は国内・海外で高く評価され、研究用灵芝として採用されています。※「飛驒灵芝」は商標です。

1kg (約250個) 30,000円
500g 17,000円 (送料込 / 送料別)

だから長期愛飲者にこそ、自信を持ってお勧めします

ご注文 お問合せ <http://www.dai1-yakusan.co.jp/>
飛驒灵芝 第一薬産 検索

☎0120-32-0963

※容・きざみ・粉末等ご要望に応じます
※開封前、着後7日間は返品可(送料送料申込者負担)

第一薬産株式会社 〒506-0003 岐阜県高山市本母町59